

に若きのいひ也と、又やまよめ、京の町のやまよめといふこと有、これもやさめにて、艶しきめといへる也、京の町のと重ねたるにて、まるべしとなん

〔賤者考〕大和國より出る千秋萬歲略○中三河國尾張國知多郡よりも同く出づ

〔張州府志二十九〕院內人在藪村、世稱、明陽師、受土御門家許可、以卜筮祈禳爲業、其先出自三河院內村、故名、院內、雖居村里、不與民爲伍、其種族甚繁、又有萬歲者、春初扮成、著袍

戴帽、唱祝辭、餽口、是其一種、人也、隣邑貧民亦爲之、

〔三養雜記一〕萬歲略○中今來る萬歲を、江戸にては、參河萬歲とおぼえたれど、遠江相摸よりも來

るなり、關西へは、尾張大和よりいづるなり、張州府志に、無住國師所作樂稱萬歲樂、使小奴德若謳之、以爲賀正、至今春初稱萬歲者、師之遺愛也とあり、無住國師道跡考にいへるも、同じおもむきなり、尾張萬歳の唱歌は、無住國師の作のよしにて、今傳ふるもの五章あり、

〔尾陽雜記三〕木賀崎長母寺略○中一萬歲といひて、今世に有、いん。な。ひ。ともいへり、其根元をたづ

ぬるに、長母寺の領むかしは、方々に有て、此あたり味鏡といふ村をはじめ、知多郡木田大高の邊に至迄、所々寺領すとなん、然るに味鏡に、一人の鄙賤有けり、世に過わびて、ある年のくれに無住にまいりて、なげきければ、あはれみて佛法のはじめを目出度作りて、年の初メにいひめぐりて、物もらひて、やすがにせよと、教たまひしなり、略○中其外あやしきうらかたをも、かのもの、世す

ぎの爲につたへおしへたまふとかや、その末々はびこりて、大高の邊はさらなり、今は他國迄此萬歲いもんの事多くなれり、剩となへうしなひて、あらぬかたこと共申侍るとなん、

〔尾張名所圖會前編六〕萬歲藪村に、森福大夫、松福大夫、米福大夫、加木屋村に、上羽大夫等の數人あ

田郡木ヶ崎、長母寺の開山、無住國師のおほせし時、其寺領たりし味鏡村に、有助といへる者、其身貧しければ、年の初には、家々に來り、福が來るの、寶が涌ると、うたひ舞などして、物を乞ひあるきぬ、國師これをあはれみ、本朝に、佛法の弘まりし事など、をまじへて、壽き福を傳習しけるが、後、今世公事起りて、味鏡萬歲は、府下多郡來らず、只其地頭計す、すべて五萬歲と舞て、唱歌五通りあれど